

# 都市の生き物の避難場所としての研究所の自然

多摩森林科学園 チーム長 井上 大成



オオイチモンジ（絶滅危惧II類）  
北海道支所に生息

皆さんの家の周りには何種類くらいのチョウがいると思いますか？日本全体では約240種、一つの都道府県には平均120種くらいのチョウがいます。

全国にある森林総研の本・支所や試験地では、これまでに46〜77種のチョウが見つかっています（図1）。例えば、つくば市の 森林総研本所では1997〜2014年までに65種のチョウが見つかっていますが、茨城県南部の平地に普通にすんでいるチョウは約70種なので、ほとんどの種類がいることになりました。また、いくつかの支所では、国のレッドリスト<sup>注1</sup>にのっているような貴重な種類も見つかっています。（表1）

森林総研のような研究所は、面積が広く、都市の近くでも直接開発されることはありません。元からある森林を残している場合も多く、樹木園や苗畑に植えられているさまざまな植物は、チョウの幼虫が食べたり、成虫が蜜を吸ったりするために役立っています。

研究所は都市の近くにある貴重な自然で、生き物の避難場所としての役割も果たしているのです<sup>注2</sup>。



オオムラサキ（準絶滅危惧）  
東北支所、千代田試験地、赤沼実験林、多摩森林科学園に生息

ツマグロキチョウ（絶滅危惧IB類） 九州支所に生息（本所、千代田試験地、多摩森林科学園、四国支所でも記録されている）

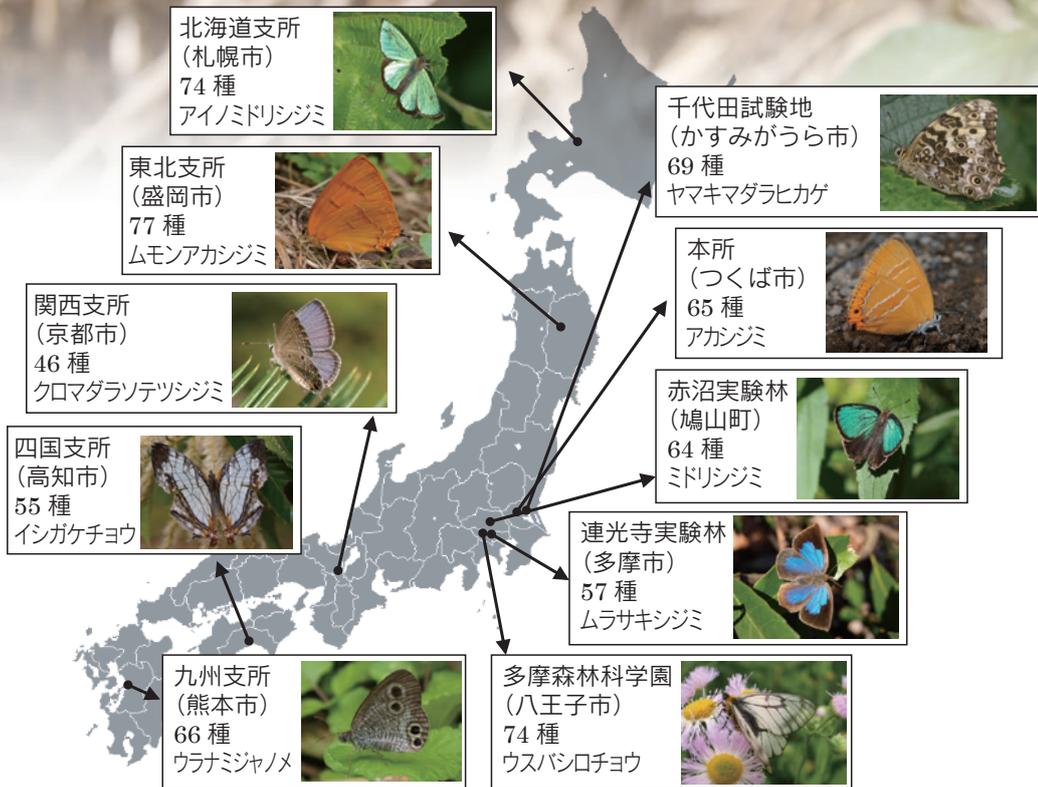


図1 森林総研の本・支所、試験地でこれまでに見つかったチョウの種数

表1 国のレッドリストにのっているチョウのうち、現在でも森林総合研究所の支所等に生息している種

種名	レッドリストの分類	生息している支所等
ツマグロキチョウ	絶滅危惧IB類	九州支所（本所、千代田試験地、多摩森林科学園、四国支所でも記録がある）
ウラギンズジヒョウモン	絶滅危惧II類	北海道支所、東北支所
オオイチモンジ	絶滅危惧II類	北海道支所
ウラナミジャノメ	絶滅危惧II類	九州支所
カバイロシジミ	準絶滅危惧	北海道支所
オオムラサキ	準絶滅危惧	東北支所、千代田試験地、赤沼実験林、多摩森林科学園
ギンイチモンジセセリ	準絶滅危惧	北海道支所、本所
スジグロチャバネセセリ	準絶滅危惧	東北支所

（注2）森林総合研究所の本・支所、試験地で見つかったチョウの一覧は、ホームページの「データベース」、「多摩森林科学園と関東・中部地方のチョウ」から見る事ができます。

（注1）レッドリスト 絶滅のおそれのある野生生物のリスト。絶滅の危険性の高さによっていくつかの段階に分けられている。  
 絶滅危惧IB類 近い将来、野生で絶滅する危険性が高いもの。  
 絶滅危惧II類 絶滅する危険性が増している、このままでは、近い将来「絶滅危惧I類」になることが確実と考えられるもの。  
 準絶滅危惧 今すぐ絶滅する危険性は低いが、数が減少したり、生息環境が悪くなったりしているもの。